

戦間期における地方銀行の破綻と再生に関する史料

―四日市銀行の事例―

櫻 谷 勝 美

I はじめに

戦前の日本の金融界では、銀行の重役が経営する事業の資金を大量に貸付ける傾向があり、その事業の破綻のあおりを受け、銀行の倒産がよくおこった。一九二七年の「金融恐慌」は、その代表例であったが、今回史料を得ることができた四日市銀行も、特定の銀行幹部の事業のための「機関銀行」の性格が払拭できず、頭取の事業の失敗で遂に一九三二年三月に預金取付けにあい破綻した事例の一つである。一九一五年から二一年まで第三代の頭取であった伊藤小左衛門の家業の破綻時には、頭取の退任と担保の資金化により銀行に悪影響なく処理したのであるが、一九二五年から一九三〇年まで第五代の頭取を務めた熊澤一衛の場合には彼の事業が電鉄業で多くの資金を固定化する性格のもだったこと、彼がそのほかにも不動産業金融業など多くの事業を手がけ当時の不況の中で遊休資金を抱える銀行にとって上得意先で、そのため経営陣のなかで強い立場にたっていたことから、払込資本金にほぼ匹敵するほどの金額を彼の事業に貸付けるのに歯止めが効かなかったこと

から、外部からの監視がなければ四日市銀行は、早晚行き詰まっていたことであろう。当時から大蔵省の銀行検査でその毎に重役貸については厳重な注意を受けていたが、なかなか整理が進まなかった。史料はその点をよく表わしている。

一九二九年、熊澤頭取は贈賄事件で起訴されたが、一九三〇年いっぱい取締役として残っていた。前の伊藤頭取に対する銀行の処置と比べ、熊澤頭取の銀行での地位の重さが伺える。預金返済不能に陥った銀行は、その後責任をとるべき重役の私財の提供と知事を中心とした地元の支援で、一九三四年頃から再建をめざしたが、容易に進まず一九三九年になって住友銀行の支援で再生をはたした。その際の主導権をめぐって住友銀行と伊藤伝七などの地元側資本との間で軋轢があり、大蔵省も地元側を支援するかのような通牒を発している点が興味深い。

ここに掲載した史料は、銀行が大蔵省にたいして経営の実態を報告するものが多く貴重な史料を含んでおり、昭和地方金融史の研究にながしかの貢献を果たすものであろう。史料一三、史料一九、史料二一、史料二三 は日本銀行編『日本金融史資料昭和統編付録第二巻』所収史料であるが、それ以外はすべて三重銀行所蔵史料である。

本稿の作成にあたり、三重銀行、四日市市史編纂室に史料閲覧の機会をいただいた。記して感謝いたします。

II 史料解題

〔史料一〕一九二〇年七月三日 四日市銀行頭取（伊藤小左衛門）から三重県内務部長宛答申書で、第一次

大戦後の反動恐慌のために重役貸大口貸の回収が進んでいない旨の釈明をしている。四日市銀行は頭取の関係事業をはじめその他の重役の事業に対する貸付が多く、いわゆる「機関銀行」的性格が強かったことがわかる。このとき頭取であった伊藤小左衛門は日本の製糸業、製茶業の先駆者で明治初期に活躍した5世伊藤小左衛門尚長の孫の7世伊藤小左衛門で、一九一五年一月頭取に就任していた。彼は別に家業の製茶業と醤油醸造業を営んでいた。表にある伊藤友五郎、伊藤千治郎は彼の息子である。

〔史料二〕一九二〇年一月三日 三重県内務部長から四日市銀行頭取宛照会で、重役及び大口貸出の回収に就いて指示がされている。

〔史料二〕一九二一年一月六日 四日市銀行頭取から三重県内務部長宛答申書で、財界不況の折回収はあまり進んでいないと釈明している。頭取の伊藤小左衛門の事業は第一次大戦後の反動恐慌の打撃を受けたようである。彼は、一九二一年七月頭取から平取締に退いた。後任には高田隆平が就任したが、彼は次の頭取の熊澤一衛と姻戚関係にあった。後の四日市銀行破綻劇の主役となる熊澤一衛は、一九二〇年一月取締役となり、一九二五年一月頭取に昇任した。

〔史料四〕一九二三年五月四日 四日市銀行から大蔵大臣宛上申書で、重役関係の貸出は払込資本金の二〇分の一を超過しないことを誓約した。

〔史料五〕一九二四年一月一六日 四日市銀行頭取から大蔵大臣宛上申書で、大口貸付の内震災手形関係から回収が進んでいないものと前頭取、当時監査役の伊藤小左衛門関係に対する固定貸の回収が進んでいないことを述べ、伊藤小左衛門の四日市銀行への返済計画書が添付されているが、他の重役への貸付が報告されていないのが気にかかるのである。

〔史料六〕一九二四年七月一五日 四日市銀行頭取から大蔵大臣宛上申書で、伊藤小左衛門の事業が破綻して債権の整理が必要になったことを報告している。

〔史料七〕一九二六年四月九日 三重県内務部長から四日市銀行頭取宛に固定的な大口貸、重役貸の整理状況に対する照会をしたものである。

〔史料八〕一九二六年五月一四日 四日市銀行頭取（熊澤一衛）から大蔵大臣宛上申書で、伊藤小左衛門関係の債権回収の見込みが立ったことの報告、伊藤小左衛門は破綻時に担保付きと無担保をあわせて、四日市銀行に三八八千円の債務を負っていた。

〔史料九〕一九二七年一月六日 四日市銀行頭取から大蔵大臣宛上申書で、伊藤小左衛門関係の債権回収の結果について報告している。尚伊藤小左衛門は一九二八年六月一〇日に死去した。

〔史料一〇〕一九二八年八月六日 大蔵省銀行検査官から四日市銀行の資産運用についての詳細な質問及びそれに対する四日市銀行頭取、専務、支配人の連名の大蔵省銀行検査官宛答申書で、頭取の熊澤関係の固定資産が多いが、担保付きで返済確実であると説明していた。また金融が緩慢であるので収益の確保のために事業の内容を知悉している重役関係の貸出も重要であると、一種居直りのな答弁をしている点が興味深い。

〔史料一一〕一九二八年九月六日 四日市銀行頭取から大蔵大臣宛上申書で、伊藤小左衛門から流込不動産の資金化についての報告で比較的担保が豊富であったので、銀行の損失は僅かに留まったことがわかる。

〔史料一二〕一九二八年十一月二一日 大蔵省銀行局長から四日市銀行頭取宛銀行検査の結果通知で、昭和三年銀行検査の結果不備不穏な事項があるので銀行に整理状況を毎月報告することを義務づけている。

〔史料一三〕一九二九年九月一七日 日本銀行名古屋支店長から総裁宛報告で、頭取が贈賄事件で送検され、

その結果四日市銀行に預金取付けがおこったが期されている。尚この預金取付けは短時日で鎮静化した。

〔史料一四〕一九二九年九月 熊澤一衛頭取は、伊藤電鉄の路線免許と叙勲に絡む贈賄容疑で起訴された。

さらに一九三三年二月彼は、業務上横領と背任の容疑で起訴された。この史料は裁判記録の一部である。一九三〇年一月熊澤一衛は頭取から平取締に降格し、同年一二月には取締役も退任した。後任の頭取は三輪綏が就任した。

〔史料一五〕一九三一年六月三〇日 大蔵省銀行局長から四日市銀行頭取（三輪綏）宛に、一九二八年一月の銀行検査の時の重役大口貸を整理回収するという約束が履行されずに、逆に増加しているとの警告である。

〔史料一六〕一九三一年九月九日 四日市銀行頭取から大蔵省銀行局長宛答申書で、鋭意回収に努力すると三年前の「史料一〇」とうってかわって低姿勢で答弁している。

〔史料一七〕一九三二年三月五日 預金取付けに遭遇し、休業した経過を記したもので、四日市銀行の調査部が作成し一九三四年一月に大蔵省の検査の際提出した書類である。銀行休業の時点で熊澤一衛及び彼の事業に対し六七三万円を貸付ており、これは払込資本金の九割、総貸出高の二割を占めていたことになる。しかも担保の伊勢電鉄株の値下がりによりその回収はほとんど困難であった。

〔史料一八〕一九三四年二月五日 四日市銀行全重役から大蔵省銀行検査官宛答申書で、一〇〇〇万円以上の欠損見込みに対し対策が立たず、しかも核心的な質問に対しては一〇日後までに答申すると述べたにとどまった。（その史料は見つけることができなかった。）

〔史料一九〕一九三九年八月三〇日 日銀名古屋支店長から総裁宛報告で、知事をはじめ地元の四日市銀行再建支援が再建に消極的であった大蔵省を動かし、四日市銀行の再生にこぎつけたことが述べられている。

〔史料二〇〕一九三九年九月七日 支援を依頼した住友銀行から四日市銀行に、支援の条件として壹万株の譲渡、重役人事、重要事項の事前相談が提起された。

〔史料二一〕一九三九年一〇月二九日 日銀名古屋支店長から総裁宛報告で、四日市銀行は四分の一に減資し住友銀行の支援を受けて再建することが決まった。再建に動いた地元有力者と住友銀行の間で重役の配分をめぐる譲あてがあったようである。

〔史料二二〕一九三九年一月二四日 三重県を通じ大蔵省から四日市銀行への指示事項で、営業基盤を四日市市とし中小企業金融を殊とし、住友銀行から経営の独立性を維持することを指示している。

〔史料二三〕一九三九年一月二八日 日銀名古屋支店長から総裁宛報告

「三重銀行」と改称して開業した営業初日の模様である。重役は地元側から会長に伊藤傳七、頭取九鬼紋七、取締役小菅弘その他、住友銀行側から専務、取締役兼支配人、監査役の三人が就任した。

III 史料

〔史料一〕

大正九年六月二十一日付農第四〇五七号を以て御示達相成候条件に付左に送信仕候

一、石原彦四郎に対する不確実債権拾六萬千八百九拾四円は（以下略）

二、三、四、の三項目に分ち御示達相受け候重役関係貸出高の各人別其他大口貸出金（五拾万円以上）の各人別移動並びに回収方針は別紙明細表の通りに有之候実は本年四月二日大蔵省検査官御出張当時の御訓辭に従ひ透かず回収に着手致候折柄同月中旬以後に於ける財界の激変に連れ諸株式の急落商品界の不況は実に名状すべ

からざる状態に有之従つて其回収も亦意の如く相運び不申漸くにして百数十万円の回収に止まりたる次第に御座候乍去下半季に入り財界の稍安定を見るに至り候はば予期の回収を遂げ得られ候事と確信仕候間将来共御諭達の主旨に背かざる様充分の注意を以て整理回収可仕候
右答申仕候也

大正九年七月三日

株式会社四日市銀行

頭取 伊藤小左衛門

三重県内務部長 岸本康通殿

重役関係貸出高各人別表

	検査当日貸出高	上半季貸出高
東海電線(株)	三八〇、〇〇〇	四八〇、〇〇〇
(株)伊藤醬油部	一七二、五〇〇	一七八、五〇〇
(株)伊藤製茶部	三七一、八五五	三九一、八五五
(株)伊藤製薬部	一〇〇、〇〇〇	九四、〇〇〇
三重製糸(株)	三〇〇、〇〇〇	〇
日進工業(株)	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇
四日市鉄道(株)	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇
伊藤友五郎	五一三、〇〇〇	三二八、五八九

伊藤千治郎	五二、七一五	五二、七一五
高田隆平	九四、五〇〇	九一、〇〇〇
三輪綏	三六、七六五	三六、二三三
九鬼紋七	二八八、九九八	一〇〇、〇〇〇
三輪達之助	五、一八五	〇
熊澤一衛	一、二七五、六二八	八七八、二〇九
合計	三、六四六、四四六	二、六八六、一〇三

〔史料二〕

農四〇五七ノ二

大正九年十二月十三日

内務部長

株式会社四日市銀行頭取殿

過般大藏省検査の成績に鑑み放資状況偏倚せるに付注意方の件に關しては本年七月三日付答申の次第も有之候
 処一般財界の状勢により重役關係の貸出其他大口貸付に対しては予期の回収を挙げる上に十分な努力を要する
 義と存候処右整理の状況はいかなる方針を以て那邊迄進行せるや詳細承知致度此段再度の照会候也

〔史料三〕

大正九年十二月十三日付農第四〇五七号ノ二を以て御示達相也候件左に答申申仕候

当銀行重役関係並びに大口貸出金額回収の義に付いては客年四月式日大蔵省検査官御出張当時の御訓辞及び昨年六月二十一日付御示達の次第も有之候付鋭意回収に努め居候へども財界の風潮益々悪化の折柄急速に所期の回収を遂げ難く候為別紙明細表の通り昨年上半年末に比し百五拾余万円の回収に過ぎざる次第に御座候就いては今後と雖も機宜に応じ御諭達の趣旨に背かぬ様心懸け充分の注意を以て漸次回収に努力可仕候

右答申仕候也

大正拾年壹月六日

株式会社四日市銀行頭取

伊藤小左衛門

三重県内務部長 岸本康通殿

〔史料四〕

上申書

本年四月二十三日大蔵事務官色部貢殿株式会社四日市貯蓄銀行御検査の序を以て当行大口貸付御調査相成候節差出候証に基き大口貸出及び重役関係貸に対する事項に付き本日重役会相開き左記の通り書面を以て申し合わせ仕候

一、重役関係貸及其他大口貸中整理不充分のものは迅速整理を遂ぐる事

一、箱根土地株式会社、静岡電力株式会社に対する貸出金は期日回収し萬止むを得ざる場合と雖も各残高を式

拾万円以内に縮減すること

一、当座預金貸越金高は契約極度を超過せざる様整理すること尚信用確実にして担保付きのものと雖も一人に対する極度金額五万円を超過せざること

一、重役関係貸出は当行払込資本金の式十分の一を超過せざること
右上可仕候也

大正十二年五月四日

株式会社四日市銀行

大蔵大臣 市来乙彦殿

〔史料五〕

上申書

当行大口貸出並びに重役関係貸出に対する大正十二年十二月三十一日現在回収金別表の通りに候間この段上申
申候也

大正十三年一月十六日

三重県四日市蔵町

株式会社四日市銀行

頭取 高田隆平

大蔵大臣 勝田主計殿

五拾万円以上大口貸出人名表

人名

八月三十一日

回収金高

十二月三十一日

現在貸出高

現在貸出高

静岡電力株式会社

五四〇、〇〇〇

一九〇、〇〇〇 三五〇、〇〇〇

右昨年十月同社株式払込金を以て全部回収仕置候処九月一日の大震災に依り該払込金は余儀なく同社の震災地における他銀行借入金返済に充当せしを以て全部返済の運びに至らず残額に対しては更に機を見て同社の株式払込を為す迄此儘据置き希望申候に付暫く回収を猶予致候

参照 御検査当時の貸出高九拾六萬貳千円にして今日までの回収総額六拾壹萬貳千円に有之候

人名

八月三十一日
現在貸出高

回収金高

十二月三十一日
現在貸出高 備考

箱根土地株式会社

二五〇、〇〇〇

—

二五〇、〇〇〇 全部担保付

右本年中に残高十萬円以内に回収減額のことに具申致置候処震災地手形の關係上延期繼承申出候に付追って機を見て漸次回収可仕候

参照 御検査当時の貸出高八拾万円にして今日迄の回収総額五拾五万円に有之候

重役関係貸出金人名表

人名

八月三十一日
現在貸出高

回収金高

十二月三十一日
現在貸出高 備考

伊藤小左衛門

三四三、一七六

二八、九〇〇

三二四、二七六 全部担保付

株式会社
伊藤製茶部
一六〇、〇〇〇
一、〇〇〇
一五九、〇〇〇
内拾萬円担保付
残高信用

株式会社
伊藤醬油部
一四〇、〇〇〇
九、〇〇〇
一三一、〇〇〇
信用
合計
六四三、一七六
三八、九〇〇
六〇四、二七六

右関東震災の為影響を受け関係事業の回復意の如くならず輸出茶もニューヨークの在貨減退せずして昨夏以来の業績良好ならず回収極めて遅緩に候へども貸出残高に対する返済方法として本人より別紙写しの通り申出候右に付二月上旬迄に御庁へ出頭委曲具陳致仕候
証

貴行より借入金参拾壹萬四千貳百七拾六円貳拾壹錢の内金参萬円は本年内に返金し更に大正拾四年中に於て担保品処分の上残高金拾八萬円以内に減額返金可致候

大正拾参年壹月拾五日

伊藤小左衛門 印

株式会社四日市銀行御中

証

目下当社所有動産並びに不動産を提供し生命保険会社より資金調達中に付き貴行より借入金拾五萬九千円の内金拾萬円は本年上半季中に返金残額は
大正拾四年以降三ヶ年間に完済致候

大正拾参年壹月拾五日

株式会社伊藤製茶部

専務取締役 伊藤小左衛門 印

株式会社四日市銀行御中

証

貴行より借入金拾参萬壱千円の内金五萬円は本年八月当社株式払込金並びに回収金を以て本年内に返金し大正拾四年中に残額全部返金可致候

大正拾参年壱月拾五日

株式会社伊藤醬油部

専務取締役伊藤小左衛門

株式会社四日市銀行御中

〔史料六〕

上申書

当行重役関係貸出に対する大正十三年六月三十日現在回収金別表のとおりに候間この段上申候也

大正拾参年七月拾五日

三重県四日市市蔵町

株式会社四日市銀行

大蔵大臣浜口雄幸殿

頭取 高田隆平

重役関係貸出金人別表

人名 十二年十二月三十一日 回収金額 十三年六月三十日

現在貸出額 現在貸出額

伊藤小左衛門 三二四、二七六 一二七、九〇〇 一八六、三七五

株式会社

伊藤製茶部 一五九、〇〇〇 一五九、〇〇〇

株式会社

伊藤醬油部 一三一、〇〇〇 三三、〇〇〇 九八、〇〇〇

合計 六〇四、二七六 一六〇、九〇〇 四四三、三七五

右の内株式会社伊藤製茶部に対する貸出金は上半季中に金拾萬円回収の予定なりしも其後生命保險会社より資金調達不能に帰したる為資金難に陥り遂に行詰まりの状態を呈したるを以て債権者を開きたる結果委員を選定し目下整理進行中に有之候依って同社の具体的整理方法出来の上改めて具申可仕候

尚同社債権者の主たるものは左の通りに有之候

第一銀行四日市支店 愛知銀行四日市支店 左右田銀行四日市支店

神戸岡崎銀行 明治銀行 住友銀行名古屋支店

横浜正金銀行名古屋支店 西口商店 名古屋倉庫株式会社

以上

追って伊藤小左衛門は本年五月二十三日当行監査役辞任致自今重役関係無之候に付追申候也

〔史料七〕

商第 号

大正十五年四月九日

三重県内務部長

株式会社四日市銀行頭取殿

株式会社四日市銀行整理に関する件

貴行大口貸付、重役関係貸出等整理に関し客年七月四日付上申の次第も有之候処尚其後の整理状況申出方其筋より照会の次第も有之候答申書式通（老通は大蔵大臣宛老通は知事宛）提出有之度此段及通牒候也

〔史料八〕

当行大口貸出並に重役関係貸出に対する其後の整理状況別紙の通りに有之候此段答申なり

大正十五年五月十四日

株式会社四日市銀行

頭取熊澤一衛

大蔵大臣浜口雄幸殿

答 申 書

一、株式会社伊藤醬油部貸金回収の件

同社に対する貸出金は本年四月二十二日全部回収済に御座候

一、株式会社伊藤製茶部に対する貸出金整理状況の件

同社貸出金整理に關しては再三上申致候通り当行の外に多数の債権者有之候のみならず連帶責任者の地位にある伊藤小左衛門氏個人の債務をも併せて整理せざるべからざるを以て昨年七月以来縷々主たる債権者会を開き鋭意整理方法を考究せしも何分債権者の中には相互の利害相反するものありて議容易に纏らず其後紆余曲折を経て昨年九月に至り株式会社伊藤製茶部並に伊藤小左衛門氏個人に対する債権整理に關し別紙要綱を作成し同月十四日主たる債権者の中当行ほか六債権者出席し大体該整理案を承認したるも債権者全部の了解を得るに至らず漸く十二月に至り別紙の通り全部債権者（中には配当割合並びに整理期間に付条件を付したるものあり）の承諾調印を了せり

依つて選定せられたる管財委員四名は今春より該整理案に基き鋭意物件の処理に着手し本月に至り漸く大部分処分し得らるることとなり無担保債権に對し整理案に該当する配当金は分配し得る成案を得たるを以て六月中には全部整理完結し得る予定に有之候

しかし当行の株式会社伊藤製茶部並に伊藤小左衛門氏に対する債権は左記の通りにして該要綱に基づき債権整理実行せらるる暁には担保付債権はそのまま担保物件を当行に取得の上債権と相殺し無担保債権は其金額に對する約割割合分の配当金を受け入れ結了する次第に有之候

当行債権明細表

人名	整理要綱に依る 債権額	整理発表後入金 又は銷却したる高	實際現在 貸付残高
株式会社 伊藤製茶部	一三四、九六五	一、四一四	一三三、五五〇
株式会社 伊藤醬油部	五九、〇〇〇	五五、〇〇〇（銷却）	四、〇〇〇
同上	二、六二七	—	二、六二七
伊藤小左衛門	一四二、一七五	二四、一三八	一一八、〇三七
同上	四〇、〇〇〇	—	四〇、〇〇〇
合計	三七八、七六八	八〇、五五二	二九八、二一六
備考 伊藤製茶部に対する不動産担保貸付金は当初金額拾万円なりしも従前同社より不動産を担保として差入れしめ横浜正金銀行に対し同社の荷為替取組みに関し当行に於て金額六万円迄を限度として保証し居りたる為同社の整理と共に右保証債務履行せし結果増額せるものに有之候			
前陳の通り本月に入り伊藤製茶部並に伊藤小左衛門氏に対する債権整理要綱に依る実行弥々確實となりたる結果当行の有する債権整理処分に関しては一日も早く担保物件を資金化する事に腐心し目下左記方針の下に整理実行を期し居候始末に有之候に付完了の上は改めて具申可仕候			

(イ) 伊藤製茶部無担保債権整理の件

(略)

(ロ) 株式会社伊藤製茶部担保付債権整理の件

(略)

(ハ) 伊藤小左衛門氏住宅担保整理の件

(略)

(ニ) 同人山林担保債権整理の件

(略)

以上

〔史料九〕

当行大口貸出並に重役関係貸出に關し答申書提出致置候処其後の整理狀況別紙の通りに有之候此段答申也

昭和二年一月六日

株式会社四日市銀行

頭取熊澤一衛

大藏大臣片岡直温殿

答申書

一、株式会社伊藤製茶部に対する貸出金整理狀況の件

同社整理に關しては大正十五年五月十四日付を以て提出仕候債権者全部の承認に係わる同社債務整理要綱に基づき同年六月中に全部整理完了せるを以て当行の同社に対して有する担保付き債権はその儘担保物件を当行に

取得の上債権と相殺し無担保債権は其金額に対し尅割尅分八厘の配当を受入れ完結仕候
依って右整理の結果

(イ) 伊藤製茶部無担保債権整理の件

同社無担保債権は別表の通り配当金七千五百円拾九銭を以て全部決済仕り残額四百七拾七円貳拾九銭を以て同
社担保付債権に内入充当致置候

(ロ) 株式会社伊藤製茶部担保付債権整理の件

(略)

(ハ) 伊藤小左衛門氏住宅担保債権整理の件

(略)

(ニ) 同人山林担保債権整理の件

(略)

以上

〔史料一〇〕

第一問

当行本店の資産中別表記載の通り固定と認めらるものの五拾六萬參千四百參拾四円余 相当整理を要する貸
出五拾萬貳千貳百九拾円余を抱擁し居れるものと認められ支店の資産に在りても別表申出の如く固定と認めら
れるもの七萬四千壹百九拾八円余を抱擁し居れるがこれに対する具体的整理方針如何

答

一、本店の資産中固定と認められたる五拾六萬參千四百參拾四円余の内

(イ) 五拾壹萬四千七百七拾壹円六拾五錢は元七十四銀行為替預け整理關係に基づく横浜興信銀行年賦預金並びに川崎造船所引受手形に関する藤本ビルブローカー銀行に対する債権にして右の内横浜興信銀行口は昭和五年十二月迄に藤本銀行口は昭和十二年十二月迄に各年賦完済を受くるものにして今後共右二口は割賦弁済期日毎に確實に回収得るものと確信致し居候も万一回収不能の虞ありたる場合には直ちに銷却可致方針に有之候(ロ) 殘額四萬七千六百円余は元左右田銀行四日市支店の債権を横浜興信銀行より譲渡を受けたるもの及び目下夫々回収に努力中のもの大部分を占め其他少額の元河曲銀行整理年賦金を含めるものなるを持つて年賦弁済期日には確實回収可致は勿論目下回収努力のものは遅くとも明年上半季中には全部回収完了すべき予定に有之候

二、本店の資産中相当整理を要するものと認められたる貸出金五拾萬貳千貳百九拾円余は主として担保不足又は期限経過の債権及び貸出極度を超過したる当座貸越金にして之等に対しては昭和三年下期末迄に可成速やかに相当増担保を徴し又は入金せしめ若しくは書換等により整理可致候

三、支店の資産中固定と認めらるる貸出金七萬四千壹百九拾八円余に対しては一部(元津農商銀行より引継に係わる久居支店貸出片桐武雄分)は既に回収の御檢令に接し居れるものも有之其他の分と共に総て回収見込みにして万一回収不能のものを生じたるときは是亦明年上半季末に銷却可致方針に有之候

第二問

当行の資金運用状態を見るに其本店又は支店所在地方以外に放出し居れるもの相当多額にして殊に重役關係又

は特殊少数者に対する大口貸出巨額に上るは資金を偏倚せしむるのみならず動もすれば情実の弊に陥り易く経営上相当考慮を要するところなりと認む これに対する重役の所信を問う 尚左記大口貸しに対しては各口毎に今後の見込みを述べべし

貸出先

金額

熊澤一衛	六三〇、〇〇〇円
九鬼徳三	三八〇、〇〇〇
高田民郎	三一〇、〇〇〇
藤本ビルブローカー銀行	四三〇、〇〇〇
河原田製絲株式会社	四〇七、九五六
田中栄八郎	七〇三、九九七
田中寿一	二五〇、〇〇〇
田辺文之助	三四五、〇〇〇
大日本人造肥料株式会社	八〇〇、〇〇〇
中島全之丞	六四二、〇五〇
武藤嘉門	三〇六、二〇〇
河村保幸	三〇六、〇〇〇
藤田好三郎	七五〇、〇〇〇
富士川電力株式会社	三九〇、〇〇〇

伊勢電気鉄道株式会社	二、六一七、七四六
養老電気鉄道株式会社	一、三二二、一五一
富士製紙株式会社	一、二七八、八〇六
樺太工業株式会社	一、一三五、九〇〇
四日市商事株式会社	一、三一六、六九五
静岡電気鉄道株式会社	一、五四〇、四七七

計

一五、八六二、九七八

答

当行の貸金運用に就いては常に深甚の注意を以て之が放資を為し居れるも此処数年来不景気の深刻に連れ新規資金の需要を喚起せず加うるに地方に於いては確実なる放資先なきため不得止本支店所在地外に之か放出先を求め又は内容を知悉せる重役関係若しくは特殊の關係者に対し信用及び確実なる担保付きを以て融資を放出したるものにして理想としては斯る放資は成るべく避けたき方針なるも現在の金融状態としては当行の収益上萬不得止措置として放資せるも現在並びに将来共絶対情実の弊に陥らざるは勿論危険率の多き大口貸し先に対し不斷信用調査に深甚の注意を払うと共に一面今後は出来得る限り地方への放資を主とすることに努力し他面収益上許す限り地方外の放資を漸次回収し資金の偏倚せざる様留意仕り御趣旨に副度方針に有之候

一、熊澤一衛

担保品も確実にして資産信用等充分なるも当行現頭取たるの關係上今後の貸出に付いては充分考慮致し情実に陥らざる様注意可致候尚八月一日金拾萬円回収仕候

- 二、九鬼徳三 (略)
- 三、高田民郎 (略)
- 四、藤本ビルブローカー銀行 (略)
- 五、河原田製絲株式会社 (略)
- 六、田中栄八郎 (略)
- 七、田中寿一 (略)
- 八、田辺文之助 (略)
- 九、大日本人造肥料株式会社 (略)
- 一〇、中島奎之丞 (略)
- 二、武藤嘉門 (略)
- 三、河村保幸 (略)
- 三、藤田好三郎 (略)
- 四、富士川電力株式会社 (略)
- 五、伊勢電気鉄道株式会社
第三問に於いて答申可仕候
- 六、養老電気鉄道株式会社
第三問に於いて答申可仕候
- 七、富士製紙株式会社

現在貸付金の内五拾七萬八千余円は商業手形なるを以て期日夫々回収すべく

残高は時節柄恰好の遊資放出先として信用確実なるものに付き金融繁閑により適當の措置致すべきも商業手形を合算し当分百万円内外迄放出致可方針に 有之候

八、樺太工業株式会社 (略)

二六、四日市商事株式会社

第三問に於いて答申可仕候

二〇、静岡電気鉄道株式会社

本日中旬頃貳拾萬円回収の予定にして残額は九月中新規増資額參百八拾萬円に対する払い込み資金を以て大部分回収の予定なるも安全且確實なる貸出先なるを以て遊資の都合に依り五拾萬乃至七拾萬円程度の貸出を致度方針に有之候

第三問

当行は左記の通り伊勢電気鉄道株式会社、四日市商事株式会社、四日市鉄道株式会社、三重鉄道株式会社等に對し巨額の貸出を為せるものある外重役行員又は一般貸出の担保として右等会社の株式を徵せるもの多数に上れるが右は速やかに其關係を希薄ならしむるの要ありと認む所見如何

(中略)

答

地方に於いては確實なる放資物件の乏しき為自然内容を知悉せる關係会社若しくは主として該会社の株式を担保物件として事業会社中最も安全且確實なる放資物件と思料し自然其方面へ多額の貸出を為し若しくは右株式

を担保として貸出を為せる状態に有之候模一面よりこれを觀れば余りに關係濃厚にして偏倚せるやの感あるを以て今後は御趣旨を遵守しなるべく速やかに其關係を希薄ならしむべく努力可致候

一、伊勢電気鉄道株式会社

現在会社に対する貸出金は多額に上れるも右貸金中尅百万円は、将来合併すべき養老電気鉄道株式会社の借入金貳百五十拾万円借換えに要する弁済金を一時立替たる為貸出たるものを以て目下養老電気鉄道株式会社に於いて鉄道財団にて借入れ手続き中の資金百五十拾万円遅くも本月下旬までに受領する予定なるを以て右にて返済を受くるものなり

尚残額は本年九月同社新規の増資額尅千万円に対する払込金を以ておよそ尅百万円回収の予定に有之候尤地方放資先としては安全かつ確実なるものと認めらるるを以て増資後に於て資金運用の都合上百五十万円内外までに貸出致すべきも之が固定貸は絶対に為さざる方針に有之候

二、四日市商事株式会社

右の内金五十拾万円は八月二日既に回収済みにして残額の内約拾九万円は商業手形に付期日回収可致残額は約参拾万円程度迄に回収し常に同額位までは放資の都合上放出致度方針に有之候尤商業手形は不断回収するものなるを以て遊資運用上前記金額の外貳拾万円位は場合に依り取扱可致候

三、養老電気鉄道株式会社

内百参拾万円は本月中旬鉄道財団に依り帝国海上及び明治生命保險会社よりの借受金を以て決済可致候尤今後遊資の運用上確実なる放出先に付き場合により七、八拾万円程度の貸出を可致方針に有之候

四、四日市鉄道株式会社 (略)

五、三重鉄道株式会社

右両社の株式を大部分担保として取得したるは近き将来に於て伊勢電気鉄道株式会社に両社共合併すべきことを知悉し合併実現まで特に貸出たるものなるを以て早晚全部回収するものに有之候

六、河原田製絲株式会社

本年製絲資金として貸出したるものなるが生糸の出荷に連れ漸次回収し遅くも本年三月迄には全部回収致可候七、丸島土地株式会社株式担保

右は、流通性に欠く株式なるを以て時機を見て担保品の交換又は回収を図り可及的当行との関係を希薄ならしむべく努力可致候

第四問

当行所有不動産参拾貳萬貳千八百四拾貳円余は急速資金化するを適當と認む殊に前頭取伊藤小左衛門に対する債權整理のため流込たる貳拾参萬六千九百七拾壹円余に於て然り右に対する今後の処置如何

答

当行所有不動産参拾貳萬貳千八百四拾貳円余の内元当行頭取伊藤小左衛門に対する債權整理のため流込たる物件貳拾参萬六千九百七拾壹円余を計上致居り右は一、二年前より之が資金化に付き予めご指示も有之容易ならざる苦慮致居候もここ数年来不景氣の深刻化に連れ迅速に換価すること能わず為に当行内容を堅実ならしむるために毎期貳万円乃至参万円の銷却を行ひ来たりたる次第なるもご指示に従ひ可及的速やかにこれが資金化に努力し御趣旨に副い可申方針に有之候

第五問

当行の支店及び出張所中には相当近接し居りて（以下略）

答

（略）

第六問

（略）

（略）

右の通り答申仕候也

昭和三年八月六日

株式会社 四日市銀行

取締役頭取 熊澤一衛 印

専務取締役 三輪 綏 印

取締役兼 吉川光蔵 印

銀行検査官 木内四郎殿

〔史料一一〕

上申書

伊藤小左衛門流込不動産資金化に関する件

伊藤小左衛門より流入に係わる不動産資金化に就いては予め御示達並びに過般木内銀行検査官殿御臨検の際における御注意に基づき爾来鋭意努力致候結果今回左記物件売却致し不足額は直ちに銷却仕候尚残余流込不動産

は目下極力売却方に努力中に付き可及的速やかに御趣旨に副い度方針に有之候

左記

人名

昭和三年六月三十日 売却高
現在見積価額

銷却高

物件

伊藤小左衛門

四八、三八九円

四六、〇〇〇円

二、三八九円

同人邸宅全部 宅地七一九坪
建物一八棟三九四坪

追て伊藤小左衛門及び伊藤製茶部より流込に係わる残余不動産左の通りに御座候

残余流込不動産

人名

昭和三年六月三十日

物件

現在見積価額

伊藤小左衛門

三九、〇〇〇

山林一五町七反四畝但十五年生三十年生

畑五反二畝七分

杉檜松立木付

伊藤製茶部

八〇、〇〇〇

同社宅地二、〇六八坪建物二九棟一、三三〇坪

同工場に備付の製茶機械全部

合計

一一九、〇〇〇

右上申仕候也

昭和三年九月六日

株式会社四日市銀行

取締役頭取熊澤一衛

大蔵大臣三土忠造殿

〔史料一二〕

銀検二三九号

昭和三年十一月二十一日

大蔵省銀行局長保倉熊三郎

株式会社四日市銀行

取締役頭取熊澤一衛殿

本年八月実地検査の結果に依れば整理改善を要する不備不穩当の事項ありこれらに付いては検査官吏に対する答申の次第も有之処尚左記各項心得の上夫々整理改善を期すへし

右示達候也

追而左記一、四及び五項の整理経過に付いては整理状況毎月報告書（別紙第一号様式及び第二号様式）を作成し翌月十日迄に当省宛提出すへし

記

一、左記不良資産に付いては答申の方法により答申の期日を俟つ迄もなく可成速やかに整理を遂くへし（答申

書第一問参照）

- | | | |
|-----|------|-----------|
| (1) | 固定額 | 六三七、六三二円余 |
| (2) | 要整理額 | 五〇二、二九〇円余 |

二、当行貸出中重役関係又は特殊少数者に対する大口貸出巨額に上るは資金を偏倚せしむるのみならず此の種貸出は動もすれば情実の弊に陥り易く経営上相当考慮を要する処なるを以て申し出通り今後共充分注意し経営上過誤なきを帰するへし（答申書第二問参照）

三、当行は伊勢電気鉄道株式会社其の他の数社との関係特に濃厚なりと認めらるるか右は其申し出通り可成速やかに其關係を希薄ならしむる様努力すへし（答申書第三問参照）

四、当行所有不動産は可成速やかに其資金化に努むへし（答申書第四問参照）

五、当行の支店出張所の廃合整理に付いては申し出の通り互譲協調の精神を以て之か実現方に務むへし（答申書第五問参照）

〔史料一三〕

日本銀行名古屋支店長から総裁宛報告（昭和四年九月十七日）

四日市銀行の預金の取付け

本行取引先株式会社四日市銀行頭取は上京中の処数日来警視庁にて取調べを受けたる結果昨日東京検事局へ送致せられたり事件の内容は未だ詳細に判明せざるも同人は伊勢電鉄株式会社社長を勤め居り前内閣時代に名古屋桑名間の電鉄敷設の許可を得鉄道省より木曾揖斐両河に仮設せる旧鉄橋の払下げを受けたる事実あり、当時兎角の噂伝えられたるが今回検査の動機は同人が右許可並びに払下げ関連して前代議士某に相当金額を小切手にて手交し某大官に贈賄の疑いあるに因るものの如し

昨夜当地放送局は頭取の拘引せられたるむねを放送し又当地一新聞紙にもこれを掲載せるを以て四日市銀行は万一を慮り今早朝小役（日本銀行名古屋支店長）に事情を述べ支払い準備の充実に努め手許資金約三百万円の外名古屋銀行より七十万円、明治銀行より百万円の預け金を引出したるが本日午後三時迄の模様は本支店を通じて概して平穩にして頭取拘引に關係ありと思はるる預金の引出しは本店に於て四万円、亀山支店二万円、神戸支店二万五千円を加へて通計約十万円に充たず、同行当事者は此向ならば大事に至らずして切抜けうる見込みなりと申し居れり（中略）

尚四日市銀行の頭取關係会社貸出關係、頭取拘引の真相等は明日同行頭取役兼支配人来店具申の筈

〔史料一四〕

熊澤一衛の私鉄、勲章事件及び

静電、伊勢電事件の顛末書

一、私鉄、勲章事件

第一、私鉄公訴事実（昭和四年九月起訴）

伊勢電鉄社長熊澤一衛は昭和三年一月二十四日名古屋、桑名間の鉄道敷設免許申請書を鉄道大臣小川平吉宛に提出したるも同地方には名古屋急行電気鉄道株式会社及び参宮急行電気鉄道株式会社の競争線ありて尋常の手段を以ては容易に其目的を達成し難き事情を看取すると同時に伊勢電の出願せる延長線が免許を得ざる時は同会社の経営上に非常の困難を来すべき状態なるを以て焦慮の余り鉄道当局者に贈賄するの外なしと思惟し同社取締役伊坂秀五郎と協議の上昭和三年六月上旬頃伊坂は小川に対し該出願線を免許せられたき旨懇請し次い

で小川の指定せる春日俊文にも之を依頼し遂に昭和三年一月二日該鉄道敷設の免許を得たるものなる処是より曩伊坂は昭和三年六月中旬頃小川と通牒せる春日俊文より右免許に対する報酬として金十二万円を提供せられたき旨要求を受け熊澤と協議の上春日と贈賄の約束を為し熊澤は同年十一月六日自己の銀行（四日市銀行）当座預金を以て振出たる金額十二万円の小切手一通を東京市麴町区内幸町金倉鉦山事務所に於て春日に交付して贈賄したるもの

第二、勲章公訴事実（第一と同時に起訴）

熊澤一衛は賞勲局総裁天岡直嘉と面識なきも予め本籍三重県三重郡河原田村村長が三重県知事に対し自己の表彰に関し功績を上申したることを聞き自己が社会公共事業に功績あるの故を以て三重県知事より主務省に対し表彰の上申あるべきを察知し居りたる折柄自己の知人にして天岡と懇親の間柄なる弁護士沢田由巳より右表彰に関し天岡に懇願する所あらんことを申出たるより熊澤は之を依頼し依って沢田は昭和三年七月ごろ及び同年十月ごろ天岡に対し熊澤の褒章授賜に尽力せられたき旨を懇願し且沢田独自の発意により天岡に対し金員入用の節は右尽力に対する謝礼として熊澤より賄賂を提供せしむべく斡旋施すべきことを暗示したるが同年十一月初旬頃主務大臣より賞勲局総裁に宛熊澤の表彰方を申牒し来たるを以て賞勲局に於いては総裁管理の下に申牒を審査し褒賞を賜うべきものと認め奏請し御裁可を得昭和三年十一月二十二日熊澤は藍綬褒賞を授賜せられたる処其頃天岡は丹羽錠三郎より金五千円の支払いを要求せられ督促嚴重なりしも其資金に窮したるより曩の沢田の言に依り熊澤より収賄し得るべき途あるを想い恰も熊澤に対し右褒章が授賜せられたる様なりしより茲に沢田の助力を得て熊澤より右褒章授賜に関し自己が賞勲局総裁として尽力したることの謝礼として賄賂を収授して右支払いに充てんと欲し昭和三年十一月二十八日東京市麴町区下二番町沢田方に於いて同人に対し暗に

熊澤より右趣旨の賄賂を提供せしむべく助力方を求め沢田は之を諾し同年十二月七日東京市麴町区内幸町格屋旅館に於いて熊澤に対し天岡の窮状を訴え暗に熊澤の褒章授賜に関し天岡が賞勲局総裁として尽力したる謝礼として金六千円を贈賄せられんことを懇願せし為熊澤は右懇請を容れ金額六千円の明治銀行東京支店宛の小切手一通を振出沢田に手交して天岡に贈賄したるもの

右第一、第二に付いては昭和八年五月一六日東京地方裁判所に於いて第一は無罪、第二は懲役二月、三年間刑の執行猶予の判決あり控訴の結果昭和九年十一月十七日東京控訴院に於いて第一、第二共有罪懲役六月、三年間刑の執行猶予の判決あり目下上告中なり

二、静鉄、伊勢電公訴事実（昭和八年二月起訴）

第一、業務上横領

熊澤一衛は大正十二年二月二十八日より昭和六年十一月十日迄静岡市鷹匠町静岡電気鉄道株式会社専務取締役として金銭の借入れ其出納保管等一切の事務を担当し大正十四年十二月二十五日より昭和五年一月二十五日迄四日市市蔵町株式会社四日市銀行の取締役頭取として貸付其他銀行業務を担当し大正九年十月二十三日静岡市川辺静岡電力株式会社の創立以来同社が大正十五年十月二十日東京電力会社に合併せられたる迄専務取締役として在任したるが右合併の際曩に自己の株式払込資金等の金融を得る為静岡電力株式会社借受名義の左記約束手形債務は東京電力株式会社承継せらるるに至らずして熊澤個人の債務として負担すべきものとなりたるところ（以下略）

（一）（イ）大正十四年三月十日静岡電力株式会社専務取締役熊澤一衛振出名義四日市銀行宛金二十七万円の約束手形にて同行より静岡電力株式会社借受名義の金二十七万円を決済せんが為（以下略）

(ロ) 大正十五年三月十九日静岡電気鉄道株式会社専務取締役熊澤一衛振出名義四日市銀行宛金二十七万円約束手形を以て同行より同会社借受名義の下に擅々同行に於て第一、(一)(イ)の手形金を弁済して横領し(以下略)

(以下(二)(イ)(ロ)(三)(イ)(ロ)(四)(イ)(ロ)(五)(イ)(ロ)(六)(イ)(ロ)(七)(イ)(ロ)(八)(九)(十)(十一)略)

第二、業務上横領

(略)

第三、業務上横領

(略)

第四、背任

(略)

右に付いては昭和九年十一月六日安濃津地方裁判所に於て懲役一年六ヶ月三年間刑の執行猶予の判決言渡あり
検事控訴を為したるため目下名古屋控訴院に係属中なり

〔史料一五〕

銀検第二五九一号

昭和六年六月三十日

大蔵省銀行局長大久保偵次

株式会社四日市銀行

取締役頭取 三輪 綏 殿

客年十二月十三日付提出に係わる昭和五年第三季監査書謄本に依れば重役関係並びに大口貸付及び同一会社の株式を大口に所有又は担保に徴せるもの巨額に達し居れるか此の処の貸付及び株式は兎角諸種の情弊を醸し易く経営上最も警戒を要する処にして昭和三年八月実地検査の際は等の貸出及び株式に付いてはそれぞれ回収減額を為し貸出を引締むる旨答申し居れるに不拘其の後却って増加の傾向あるは不適當なりと認めらるるに付き更に右貸出及び株式に付いてはそれぞれ回収減額を図り経営上遺憾なきを期すると共に特に左記貸出に付きては実地検査の際答申せる趣旨に基き之が対策に付速やかに申出つへく尚会社において最近事業年度に属する事業報告書各一部取纏め提出すへし

右示達候也

追而監査書謄本甲号附属表一の内四日市商事株式会社分二口五〇、〇〇〇円同甲号附属表二の内東海電線株式会社分三口一一九、五〇〇円は何れも久しく満期日を経過し居れるかもし未だ之が返済又は書換なきものならば回収不能或は回収困難なるものと認めらるるに付き監査書丁号表に夫々記載すべき旨監査役に伝達し其結果詳細申し出つへし

記

債務者

金額

熊澤一衛

二三九、六五五、一九

熊澤殖産株式会社

三、七四九、六五四、九三

伊勢電気鉄道株式会社

静岡鉄道株式会社

四日市商事株式会社

武藤嘉門

大成肥料株式会社

三、一五五、三二二、九一

一、七〇〇、〇〇〇、〇〇

一、六六〇、八八六、〇〇

八八四、〇四五、八五

一三八、四五〇、〇〇

〔史料一六〕

答申書

銀検第二五九一号を以て昭和五年第三期監査書に基づく重役関係並びに大口貸出及び同一会社の株式を大口に
所有するまたは担保に徴せるもの巨額に達し居れるものに対し御推問を蒙り別紙の通り答申仕候也

昭和六年九月九日

三重縣四日市市蔵町三千三百九十四番地

株式会社四日市銀行

取締役頭取三輪綏

大蔵省銀行局長大久保偵次殿

記

資金運用については常に深甚の注意を払い殊に大口貸出並びに重役関係貸出については御示達の通り兎角諸種
の情弊を生じる虞有之候為昨年一月頭取更迭を一転機とし県外放出並びに大口貸出に対し鋭意回収に努力し幸

いに県外放出の大半はすでに回収致候得共何分金解禁実施後の内地財界の不況に加ふるに世界的不景気の重圧に涉々數回収の実績を見るに至らず爾來回収の具体化につき懸命の努力致居り一日も速やかに御示達の御趣旨に副度決心に御座候

一、熊澤一衛 金額二三九、六五五、一九

右は昭和五年下半季に於て全部回収致候

一、熊澤殖産株式会社 金額三、七八九、六五四、九三

極力回収に努力致候得共時節柄涉々數回収を見るに至らず現在に於て約十万円回収したるも今後は担保物件及び熊澤一衛個人所有にかかわる動産不動産（担保として提供せしめたるにの）を可及的速やかに処分の上回収の方針に有之候

一、伊勢電気鉄道株式会社 金額三、一五五、三二二、九一

同社に対する貸出金回収については予め御示達の次第も有之漸次回収の方針を以て交渉致来り候処昭和四年九月私鉄疑獄事件に同社社長連座し金融上一時中心人物を失いたる為涉々數進展を見ず殊に当時工事続行中なりしを以て将来の払込金を以て一部分の回収に充つるの約にて地方事業の關係上一時貸増を致候処昨春來財界深刻なる不況は払い込み徴収すること不可能の状態に陥り同社の一大眼目たる桑名、名古屋間の幹線も今尚開通の域に達せず為に去る六月末株主總會を開きて優先株発行に因る増額を決議し県外に於ける有力なる株主を求め之に依て同社の目的遂行に努力中の状況に有之候に付き此際急激に回収を行はんか同社の營業に支障を来すの虞あるを以て名古屋線開通（昭和七年中に開通の見込み）を俟て払い込みその他の方法に依り漸次回収可致方針に御座候

一、静岡電気鉄道株式会社 金額一、七〇〇、〇〇〇、〇〇

同社に対する貸出金は県外放出の資金にも有之極力回収に努め足るも不幸同社専務取締役熊澤一衛は昭和四年九月伊勢電鉄社長として疑獄事件に連座せる為金融の中心を失い引続き財界の不況は容易に回収の実現を見るに至らず殊に同社の無配は払い込み金徴収不可能に帰し居れる情勢なるを以て漸次幾分宛にても入金せしむるの方針に有之且既に熊澤一衛の当行重役退任により現在に於いては重役関係情実全然無之に付之が回収実現に努力中に有之候

一、四日市商事株式会社 金額一、六六〇、八八六、〇〇

同社に対しては極力回収を迫り居るも時節柄回収困難に有之候得共漸次回収実行可致候

一、武藤嘉門 金額八八四、〇四五、八五

一、大成肥料株式会社 金額一三八、四五〇、〇〇

右二口共県外放資なるを以て回収を急ぎ来たり候処岐阜県下の金融界の動搖に依り目下借換え困難の状態にあるを以て暫く回収を見送り是等の事情止み次第透かさず回収致可方針に有之候
次に

東海電線株式会社に対する三口にて金額一一九、五〇〇、〇〇延滞分は昨春手形の連帯保証人中死亡者ありたる為保証責任上書換え手形に保証の調印を徴し難く会社の懇請を容れ利息のみ受領し今日に至るも同社は前季末に於いて住友電線会社と提携成り本年十一月十五日までに住友電線会社に於いて経営のことに契約締結致候に付同社債務に対する連帯保証人の各自負担額も漸く内面的に決定したるを以て遅くとも右十一月十五日までには確実に回収致可候事と相成り居れるを以て手形書換えを為さず其儘に致居候次第に付回収不能或は困難な

るものには無之候

四日市商事株式会社に対する二口にて五〇、〇〇〇―は既に昨年十二月二十七日同社振出手形に書換え済みに有之候

(以下略)

〔史料一七〕

昭和九年十一月十五日大蔵省検査官提出書類

四日市銀行調査部

一、休業の動機並に当時の状況

熊澤一衛氏が当行頭取に就任以来郷土の産業及び交通機関の開発を畢生の事業と成したる関係上同人並に關係会社に対する当行の貸出は著しく多額に上るに至れり預金も又昭和四年上期には四千万円となり最高の記録を示したるも昭和四年氏が私鉄疑獄事件に連座せるや爾來漸次預金の減少を來せり昭和六年下期に入り財界極度の不安、各地金融界の動揺ありて熊澤關係に多額の貸出を有せる当行は先づ同業者の警戒を受けて為替取引の円滑を欠き延いて預金の緩慢なる継続的引出しに遇いたり更に昭和七年三月一日名古屋に本店を有する村瀬銀行が突如預金払い戻しを停止したる結果三重県下松阪町及び宇治山田市の同行支店も一斉に預金の払い戻し停止したる為當県下財界に動揺を來たし南勢方面の当行支店は預金の取付けに遭遇し三月三日には稍々小康を得たるを以て或は此難関を切抜け得へきかと思われたるも翌四日又々突如明治銀行の預金払い戻しの停止発表により中京財界空前の動揺を惹起し人心極度の不安は銀行取付け騒ぎとなり其影響は直ちに當県下に波及し再び

当行本支店に涉り急激なる預金の取付けを受けたるを以て支払い資金に不足を告げ是れが調達に努力し足るも此極度端なる財界の動搖は多額の支払い資金の準備を為すに非ざれば到底其支払いに応ずる事あたわざるの状勢に立到りたるを以て百万資金の調達に努力すると共に同夜徹宵緊急重役会を開き種々協議を重ねたるも支払い資金を充実するの暇なく止むなく翌五日午前四時に至り本支店共預金の払い戻しを停止すべき事に決定し直ちに此旨発表せり

七、熊澤一衛関係資金整理顛末及び方針

大正十四年十二月二十五日熊澤一衛当行頭取として就任当時同人関係貸金百余万円なりしが概ね担保付きにして物的信用を持てするも之が回収左程困難ならざりしが昭和三年同人伊勢電鉄会社経営の任に当たると及び其他関係諸会社を背景としたる同人の信用に対し貸金益々増加し昭和四年二月に於て貳百八拾六万参百参拾五円参拾参銭の貸付金ありしが当時同人信用、物的共に薄からざりしを以て逐次貸付金の増加を見昭和四年九月十二日同人私鉄事件勃発当時既に六百参拾七万五千五百九十六円九拾九銭の貸金あり昭和五年一月二十五日関係貸金全部に対し減額或は保証を条件として後任頭取三輪綏に対し念書を差入れ頭取を辞任したりしが当時最高七百八十九万七千九百六十七円貳拾銭の貸金あり爾来上記差入証に基づき同人所有にかかる書画、骨董及び不動産を担保として提供せしめ一方百余万円を回収したるが昭和七年三月五日当行休業当時は貸金総額六百七拾参万貳千五百貳円九拾参銭となり其間担保価格著しく下落し甚だしきは無価値の株式あり同貸金に対し担保価格僅かに参百五万余円の処他に資産としてみるべきものほとんど無く回収全く困難に陥りたるを以て昭和七年上半期に於て内面的に貳百六拾貳万参千八百貳拾円参拾八銭を銷却し更に担保処分により回収を計りたるも前陳の如く担保株式の内価格殆ど無価値のものあり担保品の大部分を占むる伊勢電鉄株の如きは当時既に株価下落

著しく高潮時に比し僅かに五分の一の価値となれるを以て貸付金の幾分すら之を充すこと能わず止むなく七年下半期に於て再び百貳拾八万六千貳百七拾六円四拾銭を銷却し一方出来得る限り動産、不動産担保を処分して回収に努めたる結果当行休業以来担保処分により仮受金として存するもの百拾六万五百五拾五円四銭、回収による貸金減少額五拾万参千七百八拾参円五拾参銭にして昭和九年十一月現在同人関係貸付金六百貳拾貳万八千七百拾九円四拾銭に対し担保価格僅かに百六拾九万百八拾九円六拾銭となり今日に及べり

当行整理に關しては伊勢電關係と熊澤關係とは重大の關連をなすものあるを以て両關係に就いては極力回収方針を定むべきものなるも如何せん熊澤關係は担保価格の下落せると同人資産皆無なるとは最早殆ど手を下すに術なく殊に現在残存せる担保は不動産及び伊勢電鉄株を主たるものとして是亦容易に処分する事を得ず強いて売却処分せんが更に著しく価値を下すものあり之が為急に処分すること能わず時を得て担保処分により回収するの外他に採るべき方法なき状態となれり

昭和四年二月以降熊澤關係貸金表

年次	貸付金	担保価格
昭和四年二月	二、八六〇、三三五円	三、九四二、六三〇円
同 十月	六、三七一、五九六	五、一〇五、二八九
五年一月	七、八九七、九六七	六、一三九、五七二
六年十月	六、六六九、六三三	三、六五九、九七三
七年三月	六、七三二、五〇二	三、〇五一、六二八
昭和九年十一月現在同人関係貸金表		

六、二二八、七一九円

総貸付金（銷却せしものも含む）

内 二、八〇五、四七二円

熊澤関係口（一、九六八、二七二円銷却を含む）

此担保価格五六一、五四三円

担保品 三八六、四八〇円

同売却金二二五、〇六六円

内 三、四二三、二四六円

熊澤殖産口（一、九四一、八二四銷却を含む）

此担保価格一、〇七八、六四三円担保品 六一〇、八九九円

同売却金四六七、七四四円

両口貸金計二、三一八、六二二円（銷却を差引）

此担保品価格一、六四〇、一八九円

〔史料一八〕

答申書

株式会社四日市銀行

第一、不確実資産の整理に関する件

当行資産中には別表の通

（一）欠損見込額 一〇、〇三六、九九一円余

（二）固定額 六、三四一、四六七円余

（三）要整理額 二、四八七、五二九円余

計

一八、八六五、九八八円余

を包蔵せりと認めらる右（一）に対する銷却補填の方法並びに時期（二）に対する回収の時期及び整理の結果回収不能のものを生じたる場合に於ける銷却補填の方法並びに時期（三）に対する整理の方法並びに時期を問ふ

答

本件に関しては直ちに御答申し兼ね候に付追つて重役会において慎重協議の上十二月十五日迄に追申可致候

第二、対外債務の支払資源に関する件

当行は現在前項に指摘せる如く多額の不確実資産を包蔵せる結果総資産（払込未済資本金を除く）中より欠損見込み額、要整理額、（借受金又は預金と相殺すべきもの）及び固定額の内二割を欠損に帰するものとして控除するときは純資産総額は約八、〇九九千円となり現存対外債務総額（預金中相殺すべきものを除し）約一一、六九三千円に対比し約三、五九四千円の不足を生ずべく更に整理預金に対する将来の利息及び整理案実行終期迄の経費及び借入金利息等を見込むときは実に四、八七一千円の不足額を生ずべし仮令信託提供財産一、六〇〇千円（総額二、〇〇〇千円中二割を欠損と見込む）を支払資源に加算するものとするも尚三、二七一千円に上る資源不足を生ず斯る当行の現況に鑑みるときは対外債務の完全なる履行は頗る困難なりと認めらるるが果して如何なる対策を有するや明確なる答弁を求む

答

本件に関しては直ちに御答申し兼ね候に付追而重役会を開き慎重協議の上十二月十五日迄に追申可致候

第三、預金支払い資金調達計画に関する件

当行資産の現状よりして整理案に基づく預金払い戻し資金の調達は本年下半期及び昭和十年上期分に付いては差して難事に非るが如きも同年下半年以降に於いては資金化困難なる不動産、株式等を担保とする債権の回収又は回収困難なる無担保債権の取り立て或は資金化困難なる所有不動産の処分等にまたざる可らざるを以て資金の調達は逐次困難に陥るべく遠からずして整理案の実行に多大の支障を来すや必せり、之に対しては予め充分対策を講じ此難関を切り抜くべき用意緊切なりと認めらるるが果して如何なる計画ありや具体的に答弁を求む

答

本件に関しては直ちに御答申申し兼ね候に付追つて重役会に於いて開き慎重協議の上十二月十五日迄に追申可致候

第四、預金支払い保証の為役員より提供に関わる不動産二百万円の信託手続き遅延に関する件

(略)

第五、伊勢電気鉄道株式会社に対する貸付金整理に関する件

当行の伊勢電気鉄道株式会社に対する貸付金は現在四、二二〇、六二五円の多額に達し内三十四万円に付いては三重鉄道株式(時価約二二三、五八〇円)を担保に徴せるほか大部分は無担保なり而して同社は目下整理途上にありて之が回収は極めて困難なる実状に在るに不拘之に対する処置は極めて緩慢姑息なる嫌いあり、今後之が回収整理に付いて如何なる対策を講ぜんとするや

答

本件に関しては直ちに御答申申し兼ね候に付追つて重役会に於て慎重協議の上十二月十五日迄に追申可致候

第六、多額の伊勢電気株式を興銀へ差入れ居れる件

(質問、答、略)

第七、重役行員関係貸出の整理に関する件

新旧重役行員関係貸出は速やかに整理回収を遂げ預金支払い資源に充当すべきに不拘尚是等貸出金の整理は極めて緩慢遅々たるものあり右は甚だ不適当に付き一層之が回収整理の促進を期するの要ありと認む処置方針如何

尚右の内左記債権に付いては特に整理に関する具体的方法を問ふ

記

熊澤殖産株式会社 一、四八四、四二二円、〇〇

同 銷却分 一、九四一、八二四、四〇

四日市商事株式会社 三七八、二三九、一五

同 銷却分 七二二、二三三、四六

熊澤一衛関係 九八五、五一六、三二

同 銷却分 三、五六八、二七二、三八

小津清左衛門 五〇四、三九四、二八

三輪綏 三七六、四九七、三二

吉田伊兵衛 二八九、七九四、三八

答

本件に関しては直ちに御答申申し兼ね候に付追って重役会に於て慎重協議の上十二月十五日迄に追申可致候

第八、預金証書売買に関する件

(第八問から第一八問は、問、答を略)

第九、預金特別買入れに関する件

第十、貸付金と買入預金との相殺割合多きに失する件

第十一、整理案未承諾預金者に関する件

第十二、所有不動産資金化に関する件

第十三、借入金返済計画に関する件

第十四、営業所並びに使用人の整理に関する件

第十五、貸付金利息を預金証書を以て収入の整理を為せる件

第十六、現金勘定の取扱に関する件

第十七、四日市銀行後援同盟会との関係に関する件

第十八、その他の不備事項

右答申候也

昭和九年十二月五日

三重県四日市市蔵町参千参百九拾四番地

株式会社四日市銀行

専務取締役 吉田伊兵衛

常務取締役 小池 一

取締役	三輪 綏
同	山中傳四郎
同	森寺喜兵衛
同	小津清左衛門
常任監査役	伊藤喜太郎
監査役	三輪安之助
同	堀井 繁夫
銀行検査官	橋本昂藏殿

〔史料一九〕

日銀名古屋支店長から総裁宛の報告（昭和十四年八月三〇日）

四日市市所在四日市銀行更生運動に就いては予而（一）整理預金の払い戻し又は確たる払戻案作成、（二）地元有力者が株式を引受け且つ進んで預金を為すこと、（三）経営並びに資金関係に付ては有力銀行と相当の連絡を保つこと、等々を注意致し置きたる処銀行当事者の外地元知事、市長、商工会議所等よりも度々案を具して大蔵省に運動を続けたるを以て初め消極的なりし大蔵省も一応内容を取り調べらるゝこととなり、七月七日より十日間、検査官来検、所有不動産、株式、其他資産負債を検査せられ、同市有力者とも会見せられたり、其後不備事項実行を努力の結果、八月二五日銀行局長より三重県知事に同行更生を許す旨の申渡しあり、知事は昨二十九日県庁に關係者、伊藤傳七、九鬼紋七、小菅弘等を召集して大蔵省の示されたる左記条件を申渡し一同大

体之を了承、同行更生に努力することゝなりたる趣なり、尚今後の情勢其他其都度御報告可申上候也

記

四日市銀行更生条件

(略)

〔史料二〇〕

昭和拾四年九月七日附

住友銀行より当行宛書面写

陳者九月五日御書面を以て御申越の件拝承御来示の通り貴行御更生の上は弊行に於て御後援可申上候就いては左記事項御了承相成度為念申添候

一、差当り貴行減資後の株式壱万株を貴行に於て調達当行に譲渡すること

一、差当り代表取締役（常務重役）一名取締役支配人一名監査役一名を当行より推挙すること

一、一定額以上の貸金取引重要職員の任免株主総会議案其他重要な事項は事前に当行と打合せをなすこと

以上

〔史料二一〕

日本銀行名古屋支店長から總裁宛報告（昭和14・10・27）

四日市銀行更生に關し大蔵省へ申請の件

四日市銀行は本月三十日大株主会（二百株以上の株主）開催の予定なりし処、準備の都合上、十一月二日に延期、従つて十一月十五日同行創立記念日に開催の予定なりし更生案議決の臨時株主総会も同月一八日頃に延期致すこととし、商号の変更（一案は三重銀行）其他の關係事項に付大蔵省へ夫々申請致候

一、整理案に付ては予て御報告申上置候処、同行の減資に付いては甫め大蔵省は五分の一に減資を指示せられたるが、同行の不動産、有価証券の値上がりにて、資産状態良好となりたる為、左の如く四分の一減資案に変更して大蔵省に承認を仰ぐことと致候

現在公称資本金 一〇、〇〇〇、〇〇〇円払込七、五二五、〇〇〇円

減資後公称資本金 一、八八一、二五〇 〃 一、八八一、二五〇

（金額払込済とす）

切捨株金額

五、六四三、七五〇

一、大蔵省の指示に拠る同行所有交通株及び四日市市内所在の不動産を参急に譲渡する件は（以下略）

一、同行整理預金は三、二九四千円、此間時効による切捨見込額七千円を控除、支払い所要高三、二一七千円に有之、右預金は開業の際支払ふべきの処従来の整理預金支払の例に依り十二月二十日より支払開始のことに致度大蔵省に申請致候右預金中県信聯分五〇〇千円は県より斡旋せられて再預入せらるゝ筈の由にて、其他歩留りは五〇〇千円位はあらんかと見居れ、結局合計一、〇〇〇千円位は留まる見込の由に候

一、而して右開業資金として前期の参急に対する不動産、株式譲渡代金四、五八六千円中藤本証券、北紀銀行借入返済四〇〇千円を差引きたる四、一八六千円及び住友其他新重役持株払込金五七五千円合計四、七六一千円を有し、之に対して整理預金三、二九四千円（内時効完成七千円、及歩留り、見込県信聯分五〇〇千円、

其他分五〇〇千円）外に勸銀借入金四八〇千円を有するものに有之候

一、新重役の顔触れに付いては会長伊藤傳七氏、頭取九鬼紋七氏に定まり居りし筈なりしが、其後九鬼側、小菅側両者間に事情生じ、会長、頭取共今少ししくりと定まらざるまゝ重役改選の申請を提出せる模様候

尚住友銀行よりは専務取締に安部新吉郎氏（住友銀行小倉支店長、至極温厚の人物と謂はる）、取締役兼支配人に杉山芳之助氏（名古屋門前町支店長代理）、監査役に原安一氏（本店営業部長）入ることゝ相成居れるが、甫め重役銓衡に際し、住友側は少数重役説を主張したる処、伊藤傳七氏は住友は四分の一の株主に対し三人も重役を入れるゝならば、釣合上地元重役を増加せざるべからずと為して、地元側を増したるものの由なれば、尚重役の顔触れには他に一人二人新たに割込み又は多少の変更を見るやも図られざる模様候

尚住友銀行は本月二十九日より検査を始むる由に候

一、其後小池氏（昭和九年二月、四日市銀行の専務取締役に就任し現在に至る）は「知事の手早く幹旋に抛り住友銀行に急角度に転回したる当時の事情已むを得ざりしことを述べ、且確定以前に大蔵省、日銀に一々了解を求め置くべく知事に申したるも、知事は極まりし上ならでは申出でられずと云ふ意見にて其儘に進行せられたるは誠に不念のことゝ深く申訳なく感じ居れり、尚銀行の店舗網には系統あることなれば現状を乱さざる様、極めて慎重に経営致し度」と申し候

〔史料二二〕

昭和十四年十一月二十四日付

商第三三二〇号 三重県経済部長通牒

当行更生開業条件

記

- 一、今後重役の選任、退任に付いては予め当省の承認を受けること
- 二、毎期の決算に付いては公表前当省の承認を受けること
- 三、営業地盤は四日市市を中心とする北勢地方に限ること
- 四、住友銀行よりの援助は経営の独立性を奪はるる虞あるか如き方法に依らざること
- 五、今後地方金融殊に中小金融に主力を注ぐと共に苟も地方金融界に悪影響を及ぼすが如きことなき様十分留意すること

六、左記事項は此際実行すること

(イ)和議預金並借入金は直ちに全額支払いをなすこと

(ロ)預金その他の無担保債務の支払い確保のため重役より信託提供したる不動産の返還は和議預金の完済後になすこと

(ハ)吉田伊兵衛保証に係わる吉田順吉に対する貸付金の回収残七、四三四は銷却せる趣なるが保証人は引続き重役に留任の予定なるを以て右貸付を銷却するは穩当ならざる様被認に付相当措置を講じ回収に務ること

〔史料二三〕

日本銀行名古屋支店長から総裁宛報告（昭和14・12・28）

三重銀行（四日市銀行改称）更生開業の件

三重銀行は予定通り本日更生開業したる處、恰も歳末の事迎預金者押掛け店頭可成り混雜したる模様にて現金引出要求多かりしも一方亦閑急が通知預金二十万円を為したるを首め新規預入及振替預入れも相当ありたる等にて営業時間後相当経過したる後も整理付かず取扱計数尚未詳に有之、但本月二十二日付け御報告申上置候通り支払い準備（三、八三七千円）には懸念無き筈に有之候

右不取敢御報告申上候也